

第31回環境保全・公害防止研究発表会の概要

滋賀県立衛生環境センター

環境省、全国環境研協議会および滋賀県の主催により、第31回環境保全・公害防止研究発表会が平成16年11月4日(木)、5日(金)の両日にわたって開催されました。

第1日目は、中央合同庁舎5号館講堂において、主催者のあいさつ、続いて特別講演および研究発表が行われ、第2日目は引き続き研究発表が行われました。第1日目は会員、行政機関から約150名、第2日目は約140名の参加があり、成功裡に終了しました。

2日間の日程は、第31回環境保全・公害防止研究発表会日程表のとおりです。

1. 主催者あいさつ

開会に当たり、主催者を代表して環境省大臣官房桜井審議官、全国環境研協議会の須藤会長、滋

賀県知事(川尻滋賀県東京事務所長代読)からそれぞれあいさつがありました。概要は以下のとおりでした。

○桜井審議官あいさつ

本日はご多忙の中、全国からお集まりいただき、2日間にわたり研究発表や情報交換をされるということで、その成果に大いに期待しているところです。また、本日は、中杉先生から化学物質リスク管理の方向というテーマでご講演をいただけることになっております。

この研究発表会は昭和49年から毎年開催され、今回で31回目になる歴史のある研究発表会です。31年前と現在では、環境問題・公害問題は大きく変わってきましたが、基礎的な研究や実態調査は、地域における取り組みの細部に通じる重要なものであると考えています。



主催者を代表してあいさつをされる桜井環境省大臣官房審議官



主催者あいさつをされる須藤全国環境研協議会会長



開催県を代表して滋賀県知事のあいさつを代読する川尻滋賀県東京事務所長

第31回環境保全・公害防止研究発表会日程表

平成16年 11月4日(木)	中央合同庁舎5号館 講堂 ○開会(13:30~13:45) 開会のことば 滋賀県立衛生環境センター所長 辻 元宏 主催者挨拶 環境省大臣官房審議官 桜井 康好 全国環境研協議会会長 須藤 隆一 滋賀県知事 國松 善次 ○特別講演(13:50~15:00) 演 題 「化学物質リスク管理の方向」 講 師 中杉 修身(横浜国立大学共同研究推進センター客員教授) 座 長 須藤 隆一(全国環境研協議会会長 埼玉県環境科学国際センター総長) ○研究発表会(15:10~16:55) ○化学物質Ⅰ 環境中の挙動	
平成16年 11月5日(金)	研究発表会 第1会場(経済産業省別館9階944号室) 第2会場(経済産業省別館10階1028号室) ○化学物質Ⅱ(9:30~10:50) 分析方法 ○大気Ⅰ(10:55~12:15) オキシダント等 (昼食・休憩) ○大気Ⅱ(13:10~14:10) 粒子状物質等 ○大気Ⅲ(14:15~15:15) 悪臭 ○地球環境(15:20~16:20) ○水質Ⅰ(9:30~10:50) 水環境 ○水質Ⅱ(11:00~12:20) 生物 (昼食・休憩) ○水質Ⅲ(13:20~14:40) 水質浄化, 動態分析 ○環境生物(14:50~16:10) ○閉会 第1会場(16:20~16:30) 閉会挨拶 環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室長 齊藤 眞 次期開催県挨拶 千葉県環境研究センター次長 弘山 知直	

公害防止が基本の時代は、環境が経済に優先していましたが、最近ではむしろ、環境と経済の統合というような言い方をしています。環境を良くすることが経済の発展につながる、経済の発展が環境を良くすることにつながる、併せて全体的なリスクの削減につながり、経済的な優勢も得られるのではないかと思います。こういった環境と経済の好循環を促すという意味においても、環境研究や技術開発の果たす役割は非常に大きなものがあると思います。皆様方の各地域で環境問題に関する様々なテーマやフィールドがあると思います

が、本日の議論の中でぜひ情報交換をしていただき、研究のレベルを高めていただければと思います。

環境省といたしましても、来年度は競争的研究資金に地域の独自性や特性を生かした研究課題枠を設けるよう概算要求しているところです。また、環境技術実証モデル事業では、いくつかの地方公共団体に技術の実証機関をお願いしているところです。今後ともこうした事業を通じまして、皆様方の活動・研究の支援をしてみたいと思います。

○全国環境研協議会須藤会長あいさつ

全国から多数の方々にご参加をいただいたこと、まず、お礼申し上げます。今回は、東京で開催するというので、開催を担当された滋賀県の方以外に、環境省を始め全国環境研協議会の首都圏、東海・近畿・北陸支部のみならずご尽力をいただきました。関係者の方々へ感謝を申し上げます。

最近、大気や水質という従来からの分野に加え、地球環境問題、自然環境—生物に関係した分野が目立つようになりました。これからの研究の方向にはこういう分野もあるのではないかと考えており、みなさまがたが研究を広く捉え、これらの分野にも志していただいていること、大変頼もしく思います。体制の問題などでなかなか研究を推進するのも難しいと伺っておりますが、私自身、環境省の方にも地方環境研究機関を育てるような仕組みをお願いをしておりますし、つながりも深めていこうと考えており、できる限りの努力をさせていただきます。

この場は研究交流の場です。行政の方もいらっしゃると思いますので、研究者間同士、あるいは研究者と行政間の交流を深めていただくことを願います。

○滋賀県知事あいさつ

多数の方々にご参加をいただき、また、研究発表への応募をいただきましたことについて、厚くお礼を申し上げます。

今回は、中杉先生から「化学物質リスク管理の方向」についてご講演を賜りますとともに、38名の方々から研究成果のご発表をいただくことになっています。

化学物質は、5万種類以上が市場に出回り、私たちの生活に利便性をもたらす反面、微量でも健康や生態系への影響が否定できない物質、あるいは将来の世代に及ぶ影響が懸念される物質がたくさんあります。

滋賀県では、「次の世代に責任を持つ『環境こだわり県』づくり」を重要施策の一つとしており、県民の方々に化学物質の正しい使い方をお願いするとともに、化学物質によるリスクを的確に把握し、将来の世代に禍根を残さないようにしたいと考えています。

全国の環境研の方々がお集まりになり、お互いの研究結果を発表し、意見を交換し合うことは、大変素晴らしいことであり、この場が切磋琢磨の場となり、そして、皆様方の調査、研究の成果が行政の施策に生かされ、環境の保全と創造の原動力となることを期待しております。

滋賀県では現在、衛生環境センターと琵琶湖研究所を統合し、総合的な研究機関を来年の春頃にはオープンする予定ですので、是非お越しくださるようお願い申し上げます。

(川尻滋賀県東京事務所長代読)

2. 特別講演

横浜国立大学共同研究推進センター中杉客員教授により「化学物質リスク管理の方向」について特別講演が行われました。

3. 研究発表

2日間にわたり、38名の方から以下のとおり研究発表が行われました。

(1) 第1日目(中央合同庁舎5号館講堂)

○化学物質Ⅰ(環境中の挙動) 15:10~16:55

座長：高原康光(岐阜県保健環境研究所)

①静岡市内の河川におけるノニルフェノール等の実態と非イオン界面活性剤中の成分

岡崎幸司(静岡県環境衛生科学研究所)

②廃ガラスを原料とする発泡ガラスの安全性に関する研究

門木秀幸ほか(鳥取県衛生環境研究所)

③山地における埋設農薬の漏洩拡散状況調査

富永泰子ほか(新潟県保健環境科学研究所)

④水中における船底防汚代替塗料の分解

張野宏也ほか(大阪市立環境科学研究所)

⑤北海道内底質中の多環芳香族炭化水素について

田原るり子ほか

(北海道環境科学研究センター)

(2) 第2日目

(第1会場：経済産業省別館944号室)

○化学物質Ⅱ(分析方法) 9:30~10:50

座長：田子 博(群馬県衛生環境研究所)

⑥四重極型 GC/MS による PCB の分析方法の検討及び底質中 PCB の起源推定

松木 司ほか(広島市衛生研究所)

- ⑦ダイオキシン類分析における高圧液体抽出法の問題点と運用方法の最適化

中村朋之ほか(宮城県保健環境センター)

- ⑧不正軽油関連廃棄物中の鉍物油成分及びクマリンの分析

藤原博一ほか(岡山県環境保健センター)

- ⑨京都府がダイオキシン類環境測定を委託した外部機関への精度管理について

茶谷祐行ほか(京都府保健環境研究所)

○大気Ⅰ(オキシダント等) 10:55~12:15

座長: 中村栄一(宮城県保健環境センター)

- ①キャニスターを用いた大気中VOCsの一週間平均化採取法の検討

田子 博ほか(群馬県衛生環境研究所)

- ②兵庫県における週末オキシダント濃度に関する一考察

坂本美徳ほか

(兵庫県立健康環境科学研究所)

- ③西日本及び日本海側における光化学オキシダント濃度の特徴

藤原 誠ほか(鳥根県浜田健康福祉センター)

- ④自動車排出量推計値と局地汚染濃度の関係について

竹内 淨ほか(川崎市公害研究所)

○大気Ⅱ(粒子状物質等) 13:10~14:10

座長: 串田光祥(香川県環境保健研究センター)

- ⑤名古屋市における大気中PM2.5の成分濃度と発生源寄与率の推定

中島寛則ほか(名古屋市環境科学研究所)

- ⑥SPM測定機のテープろ紙中の黄砂成分について

奥村秀一ほか(富山県環境科学センター)

- ⑦人口を考慮した大気環境評価

岡崎 淳(千葉県環境研究センター)

○大気Ⅲ(悪臭) 14:15~15:15

座長: 高橋正昭(三重県科学技術振興センター保健環境研究部)

- ⑧ディーゼルエンジンを利用した多機能脱臭装置について

高原康光ほか(岐阜県保健環境研究所)

- ⑨臭気指数測定の高精度化の検討とマニュアルの作成

堀越壮一ほか(群馬県衛生環境研究所)

- ⑩畜産系コンポスト処理時の臭気低減化に関する研究—残留臭気の高減化(二次処理)に関する研究—

串田光祥ほか(香川県環境保健研究センター)

○地球環境 15:20~16:20

座長: 岡崎 淳(千葉県環境研究センター)

- ①高野・熊野における酸性雨金属腐蝕調査

野中 卓ほか

(和歌山県環境衛生研究センター)

- ②黄砂による酸性雪中和の効果について

田中卓実ほか(鳥取県衛生環境研究所)

- ③原料を異にしたバイオディーゼル燃料(BDF)の規格適合性について

吉留竜仁ほか(愛媛県立衛生環境研究所)

(3)第2日目

(第2会場: 経済産業省別館1028号室)

○水質Ⅰ(水環境) 9:30~10:50

座長: 藤田和男(岡山県環境保健センター)

- ①清浄地域に位置する明神池の水質特性調査

浅野勝佳ほか(奈良県保健環境研究センター)

- ②奈良県内における河川の酸性化調査

松本光弘ほか(奈良県保健環境研究センター)

- ③DO, SS, CODによる水質の簡易評価方法

高橋正昭ほか(三重県科学技術振興センター保健環境研究部)

- ④底泥からの窒素・リンの溶出メカニズムの解明—久々子湖の場合—

青木啓子ほか(福井県衛生環境研究センター)

○水質Ⅱ(生物) 11:00~12:20

座長: 田所正晴(神奈川県環境科学センター)

- ⑤公共用水域における死魚事例について

宮城俊彦ほか(沖縄県衛生環境研究所)

- ⑥色素ルテインによる博多湾東部浅海域のアオサ堆積状況の推定

上野祐子ほか(福岡市保健環境研究所)

- ⑦香川県のため池におけるアサザの生育環境について

張 志保子ほか

(香川県環境保健研究センター)

- ⑧理化学的水質及びプランクトン調査による湖沼水質特性の総合評価

的場義典ほか(富山県環境科学センター)

- 水質Ⅲ(水質浄化, 動態分析) 13:20~14:40
 座長: 宮城俊彦(沖縄県衛生環境研究所)
- ⑨浸透槽汚水の性状およびその処理の実態
 田所正晴ほか(神奈川県環境科学センター)
- ⑩海藻活用水質浄化事業(第2報)
 小山孝昭ほか(宮城県保健環境センター)
- ⑪山林からの流出汚濁負荷
 吉田富美雄ほか(長野県環境保全研究所)
- ⑫都市近郊林生生態系における物質の動態
 佐野方昂ほか(愛知県環境調査センター)
- 環境生物 14:50~16:10
 座長: 張野宏也(大阪市立環境科学研究所)
- ①マダイにおける Aryl hydrocarbon receptor
 の特性とダイオキシン類毒性影響の解明
 山内正信ほか(愛媛県立衛生環境研究所)
- ②環境アセスメントデータとリモートセンシング
 衛星画像による生物生息環境の評価
 嶋田知英ほか(埼玉県環境科学国際センター)
- ③水生植物, 貝, ミジンコによる水質浄化
 藤田和男ほか(岡山県環境保健センター)
- ④都内水域の魚類生殖異変とエストロゲンの流
 入負荷量
 和波一夫ほか
 (東京都環境科学研究所応用研究部)

4. 閉 会

閉会にあたり環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室齊藤室長および次期開催県の千葉県環境研究センター弘山次長からあいさつがありました。その概要は次のとおりです。

○齊藤室長あいさつ

二日間にわたり発表会にご参加いただき、ありがとうございました。

さて、最近の日本の科学技術政策の動きとして、科学技術を通して地域振興をしようとい

うことがあります。関係の省庁で連携をし、地域協議会を設置しようという議論が本省レベルでなされ、各地域で動き出します。環境省の場合は、各地区の環境対策調査官事務所が加わります。今後、自治体の環境に関するプロジェクトを地域科学技術振興の枠組みでやっていくところへ地方環境研究所が入っていくということが起きてくるのではないかと思います。

競争的研究資金については、環境省も今年度から地球温暖化対策について新しい制度をつくっています。また、来年度の概算要求では、競争的研究資金の中に、地域に根ざした研究あるいは地域振興に役立つ研究の枠を設けることとしています。競争的研究資金にぜひ積極的に応募していただきたいと思っております。

また、平成17年度は、科学技術基本計画、環境基本計画、国立環境研究所の中期計画の最終年度ということで、一つの節目の年ですので、17年度中に環境研究・技術開発のあり方についての新しい戦略を中央環境審議会で議論していただきます。その新しい戦略づくりの中で、地方環境研究所の位置づけをより明確に打ち出していきたいと思っておりますので、皆様方のご協力をよろしく願います。

本日の発表会は、皆様方に取りましても我々に取りましても実りある機会であったと思います。次回開催県の千葉県さんを始め、引き続き皆様方のご協力をいただきますようお願いいたします。

○次期開催県あいさつ

自前の施設で手作りで開催する予定です。千葉県は環境を研究されている方にとって参考になる施設がたくさんあり、この時期は幕張メッセを始めとして、様々なところで環境に関するイベントが行われています。来年も今年以上に多数の方に参加と発表をしていただくよう願います。